

故きを温ねて、新しきを知る。帯広葵学園のあしあと

子どもに似合う言葉とは

—それは“希望”です。—

学校法人帯広葵学園 理事長 上野敏郎

NHKの朝ドラ『あんぱん』が始まった。人生は「よろこばせごっこ」と語った漫画家やなせたかしとその妻のぶとの夫婦愛を描いたドラマである。言うまでもなく、ここで言うやなせたかしとはアンパンマンの生みの親、漫画家である。そのやなせたかしは詩人でもあった。こんな詩を残している。

希望のろうそく

希望はろうそくの ほのおです

私の心を明るくする

でも ときどき

風に ふきけされそうになる

絶望のとなり

絶望のとなりに だれかが そっと腰かけた

絶望は となりのひとに聞いた

「あなたは いったい だれですか？」

となりのひとは ほほえんだ

「私の名前は 希望です」

漫画家やなせたかしは、50歳を過ぎてから陽の目を浴びた人である。そのやなせたかしが、「アンパンには生命が宿る」と言い切る。詩もアンパンも、心して味わいたいと思う。

